

水道事業の業務状況（令和3年9月30日）

1 事業の概況

加須市の水道事業は、平成25年度に厚生労働大臣から新たな加須市水道事業として創設認可を受けるとともに、合併に伴う水道料金の一元化を行い、平成25年度及び平成26年度の料金一元化に伴う激変緩和措置を経て、平成27年度からは、全市域での統一料金の適用による事業経営を行っています。

水需要については、環境に配慮した節水意識の高揚、節水型家電の普及に加え、給水人口の減少に伴い、減少傾向が続いております。そのため、水道事業の源泉である料金収入は、新型コロナウイルス感染症対策として市民等へ生活支援として実施した水道基本料金の免除等の影響もあり、令和2年度決算において、対前年度比9.2%減少するなど、水道事業を取り巻く経営環境は、厳しい状況が続いております。

また、経営の効率性については、その重要な経営指標である有収率が、平成25年度から4年間連続して年1ポイント以上減少しておりましたが、漏水調査による早期修繕等に努めた結果、平成29年度より上昇に転じ、令和2年度決算においては、対前年度比0.6ポイント増加いたしました。しかし、目標としている有収率（90.0%）を達成するためには、施設の稼働が更に収益につながるよう引き続き、対策を講じる必要があります。

そこで、令和3年度の事業経営としては、事業運営の指針である「加須市水道ビジョン改訂版」に掲げた各種施策の推進はもとより、短期的には、漏水調査や老朽管の更新による有収率向上対策により経営改善を図るとともに、中長期的には、「第2次加須市総合振興計画前期基本計画」など市の主要計画との整合や社会経済情勢の変化に応じた水需要の動向を踏まえながら、決算ごとに投資計画や財政収支見直しを見直し、引き続き、計画的に水道施設の更新を図って参ります。

また、経営基盤の強化を図る方策として、民間委託の拡大や水道広域化も検討しつつ、『未来へつなぐ安心・安定加須の水』を市民に継続して供給できるよう、計画的かつ効率的な事業経営に努めていきます。

(1) 営業状況

配水量は、年間予定15,584千m³に対し、7,819千m³（50.2%）を執行しております。

一方、料金収入のもととなる給水量（使用水量）は、年間予定13,212千m³に対し、6,678千m³（50.5%）を執行し、これによる収入額は、年間予定2,416,180千円に対し、1,198,891千円（49.6%）となっております。

(2) 建設改良工事

令和3年度に予定している設備投資に関する事業は、下記のとおりです。

事業名	事業費(千円)	事業概要
石綿セメント管更新	204,411	石綿セメント管の更新（耐震化）工事
水圧不足対策	211,857	水圧不足解消のための配水管布設工事
有収率向上対策	26,484	漏水多発地区における配水管布設替工事
浄水場統廃合更新整備	154,462	久下浄水場（上水道管理センター）の更新工事
浄水場設備改修	49,269	各浄水場の設備改修工事

2 経理の状況

収入	予算現額 (千円)	予算執行累計額 (千円)	執行率 (%)
収益的収入	2,832,084	1,303,927	46.0
資本的収入	404,100	0	0

支出	予算現額 (千円)	予算執行累計額 (千円)	執行率 (%)
収益的支出	2,704,081	665,396	24.6
資本的支出	1,318,228	375,344	28.5

※ 収益的収支：家庭への給水や県水の受水などの営業活動に伴う収入と支出

※ 資本的収支：水道管や浄水場の整備などの設備投資に伴う収入と支出